



最初にお読みください

CentreCOM® 8948XL リリースノート


この度は、CentreCOM 8948XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0021-10 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.H）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.9.1-05

2 本バージョンで追加された機能


ソフトウェアバージョン 2.9.1-02 から 2.9.1-05 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 ARP 応答待ち時間の変更

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

ARP 要求に対する応答待ち時間を 1 ~ 30 秒の範囲で変更できるようになりました。設定は新しく追加された SET IP ARP WAITTIMEOUT コマンドで行います。デフォルトは 1 秒です。

2.2 マルチキャスト MAC アドレスの ARP エントリー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

マルチキャスト MAC アドレスの ARP エントリー（例：IP=192.168.10.2 / MAC=01-00-5e-28-0a-02）を ARP キャッシュに登録するかどうかを選択できるようになりました。設定は新しく追加された ENABLE/DISABLE IP MACDISPARITY コマンドで行います。デフォルトは登録不可ですが、ENABLE IP MACDISPARITY コマンドを実行すると登録可能になります。なお、本設定はダイナミックエントリーとスタティックエントリーの両方に適用されます。

3 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.9.1-02 から 2.9.1-05 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 TFTP によるアップロード時（UPLOAD METHOD=TFTP）、IPv6 アドレスの指定ができませんでしたが、これを修正しました。
- 3.2 本製品の IP アドレスを変更しても、SHOW NTP コマンドの「Host Address」欄（NTP モジュールの使用している IP アドレス）が更新されませんでした。これを修正しました。
- 3.3 ポートトランッキング/LACP と RSTP の併用時、トランクポートで T/C フラグのセットされた BPDU を受信しても ARP キャッシュが正しく更新されず、通信が復旧しないことがありましたが、これを修正しました。

- 3.4 Authenticator ポート、MAC ベース認証ポートにおいて、Supplicant の再認証を有効にし (REAUTHENABLED=TRUE)、再認証間隔 (REAUTHPERIOD) を短い値 (10 秒程度) に設定している場合、または、複数のポートで再認証を有効にしている場合、認証処理の発生するタイミングでリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 3.5 MAC ベース認証ポートにおいて、認証済み Supplicant が ARP 解決を実行した場合、直後の IP パケット 1 個が本製品によって破棄されていましたが、これを修正しました。
- 3.6 MAC ベース認証ポートにおいて、認証済み Supplicant からの NBT (NetBIOS over TCP/IP) 通信ができなくなることがまれにありましたが、これを修正しました。
- 3.7 SET DHCPSPNOOPING PORT コマンドの MAXLEASES パラメーターを変更しても動作に反映されないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.8 コマンド入力補助機能 (「?」、 「TAB」によるパラメーター値の説明) において、PING コマンドの TIMEOUT パラメーターに指定できる値の範囲が間違っ表示されていましたが、これを修正しました。
- 3.9 DHCP クライアント機能を有効から無効に変更しても (IP アドレスを固定設定しても)、該当インターフェースから DHCP サーバー宛ての要求パケットが送信され続けることがありましたが、これを修正しました。
- 3.10 ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース) 宛てのパケットに対して、パケットを受信した VLAN インターフェースの IP アドレスで応答していましたが、これを修正しました。
- 3.11 経路タグ値が大きい場合、SHOW IP ROUTE コマンドの表示において、Tag 欄の値が Metrics 欄の値と連結してしまい、1 つの大きな値のように表示されることがありましたが、これを修正しました。
- 3.12 準スタブエリア (NSSA) の ASBR として動作している場合、タイプ 7 LSA の Forwarding Address を正しく選択できず、該当経路宛ての通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 3.13 本製品を準スタブエリア (NSSA) のエリア境界ルーター (ABR) として動作させると、リポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 3.14 BGP-4 において、自動ソフトリセットを有効にしているも、SET BGP PEER コマンドの DEFAULTTORIGINATE パラメーターの設定変更が自動的に反映されませんでした、これを修正しました。
- 3.15 BGP-4 のプレフィックスフィルターにおいて、デフォルトルートを表す「SOURCE=0.0.0.0 SMASK=255.255.255.255」を設定できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.16 ADD BGP AGGREGATE コマンドにおいて、ADD BGP NETWORK コマンドや ADD BGP IMPORT コマンドで取り込んだ経路情報と同じプレフィックスの集約経路を登録

すると、取り込んだ経路情報を削除しても該当集約経路を使い続けていましたが、これを修正しました。

3.17 RIPng を無効にしても、タイムアウトで完全に削除されるまで RIPng 由来の経路を使用しつづけていましたが、これを修正しました。

3.18 PIM6-SM において BSR までの経路が複数存在するとき、Bootstrap メッセージ (BSM) を受信すると、BSM のフォーマットが正しくても inBSM と badBSM の両カウンターがカウントされていましたが、inBSM だけがカウントされるよう修正しました。


以下の項目は、ソフトウェアバージョン **2.9.1-02** のリリースノートに記載されていませんでしたが、実際には **2.9.1-02** で修正済みでした。

3.19 複数の更新処理が同時に発生した場合、L3 テーブルが正しく更新されないことがありましたが、これを修正しました。

4 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン **2.9.1-05** には、以下の制限事項があります。

4.1 コンパクトフラッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」


コンパクトフラッシュ上のディレクトリー名が長い場合、SHOW CFLASH コマンドが正常に動作しないことがあります。フルパス名が 200 文字を超えないようにディレクトリー名を設定してください。

4.2 RADIUS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

- 複数の IP インターフェース (IP アドレス) を設定している場合、RADIUS Access-Request パケットの始点 IP アドレスと NAS-IP-Address の値が異なることがあります。両者を一致させたい場合は、RADIUS サーバーの指定時 (ADD RADIUS SERVER コマンドの実行時) に、LOCAL パラメーターでローカル IP インターフェースを指定してください。
- RADIUS サーバーを複数登録している場合、最初に登録した RADIUS サーバーに対してのみ、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターが正しく動作しません。最初の RADIUS サーバーへの再送回数のみ、RETRANSMITCOUNT の指定値よりも 1 回少なくなります。

4.3 ログ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」


CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターが機能しません。

4.4 SNMP

「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません
- イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- プライベート MIB の instRelMajor、instRelMinor、instRelInterim の値を取得できません。
- プライベート MIB の fanAndPsPsuPresent において、電源ユニットが装着されていないという状態を正しく表現できません。Bay 1 (PSU1) 側に電源ユニットが装着されていない場合、本製品は値を返しません。
- ポートトランキングを使用しているとき、SHOW INTERFACE コマンドに COUNTERS パラメーターを指定して実行すると、トランクグループのカウンター値が 0 のまま増加しません。SHOW INTERFACE コマンドの INTERFACE パラメーターに トランクグループ名を指定して実行すると、正しいカウンター値が表示されるようになります。
- プライベート MIB の atrMacBasedAuthPaeState において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ authenticated(5) になるべき MIB の値が、authenticating(6) になります。
 - ・ held(7) になるべき MIB の値が、aborting(6) になります。
 - ・ SET PORTAUTH PORT コマンドで「SET PORTAUTH=MACBASED PORT=5 CONTROL=AUTHORISED;UNAUTHORISED」を設定しても、MIB の値が forceAuth(8) または forceUnauth(9) にならず、initialise(1) になります。
- プライベート MIB の atrMacBasedAuthControlledPortStatus において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ 認証を行っていないにもかかわらず MIB の値が unauthorised(2) にならず、authorised(1) になります。
 - ・ SET PORTAUTH PORT コマンドで「SET PORTAUTH=MACBASED PORT=xx CONTROL=AUTHORISED;UNAUTHORISED」を設定しても、MIB の値が forceAuth(10) または forceUnauth(12) にならず、never(1) になります。
- LC コネクタを持つ SFP ポートの ifJackType (ポート形状を示す変数。MAU MIB) が正しくありません (「fiberSC」となります)。
- プライベート MIB の restart の値を Get Next Request では取得できません。Get Request ならば取得できます。

4.5 NTP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」


SET NTP UTCOFFSET=NONE を実行した後、設定を保存して再起動すると、起動時に「Invalid zone or time for UTC offset.」というエラーメッセージが表示されます。タイムゾーンをデフォルト値に戻す場合は、SET NTP UTCOFFSET=UTC（または GMT）のように指定してください。

4.6 TELNET コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」


TELNET コマンドの実行時に DNS サーバーへの問い合わせが行われた場合、DNS サーバーからの応答に IPv6 アドレスが含まれていると、TELNET コマンドが反応しなくなります。

4.7 BPDU フォワーディング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」


BPDU フォワーディング有効時、転送された BPDU のサイズが 68 Byte になります。

4.8 ENABLE SWITCH PORT AUTOMDI コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


Telnet 経由とコンソールポート経由同時にログインしているときに、Telnet クライアント上で ENABLE SWITCH PORT AUTOMDI コマンドを実行すると、入力結果が Telnet クライアントの画面上に表示されず、コンソールターミナルの画面上に表示されます。

4.9 LACP (IEEE 802.3ad)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「LACP (IEEE 802.3ad)」


LACP によって自動生成されたトランクグループのメンバーポートに対して CREATE SWITCH TRUNK コマンドを実行すると、通信ができなくなります。

4.10 タグ VLAN

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」


すべてのポートをメンバーとするタグ VLAN を大量に作成し、各 VLAN に IP アドレスを割り当てている場合、いずれかのポートがリンクダウンすると一時的にコンソールの反応が悪くなります。

4.11 スパニングツリープロトコル (STP/RSTP)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリー (STP/RSTP)」


スパニングツリープロトコル (STP) 有効時、スイッチポートがリンクダウンしても STP のポート状態が Forwarding のまま変化しません。このため、スパニングツリーの再構成にかかる時間が最大エージタイム (MaxAge) の分だけ長くなります。

4.12 マルチプルスパンニングツリープロトコル (MSTP)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「マルチプルスパンニングツリープロトコル」


マルチプルスパンニングツリープロトコル (MSTP) の使用時、ワイヤーレートの通信が行われていると、Topology Change が発生することがあります。

4.13 イーサネットリングプロテクション (EPSR)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「イーサネットリングプロテクション」


- 複数の EPSR ドメインを設定している場合でも、SNMP では直前に変更のあった 1 つの EPSR ドメインに関する情報しか取得できません。
- EPSR ドメインを削除した後も、SNMP では該当 EPSR ドメインの情報を取得することがあります。

4.14 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」


- ルーティングパケットと本体 (CPU) 宛てのパケットに対して、フォワーディングデータベース (FDB) のスタティックエントリーが機能しません。
- フィルタリング対象の MAC アドレスを持つ機器が、PORT パラメーターで指定したとは異なるポートに接続されている場合、本製品から該当 MAC アドレスに宛てたパケットに対して、ACTION=DISCARD のスタティックエントリー (スイッチフィルター) が正しく機能しません。

4.15 QoS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」


- MAXBURSTSIZE と MINBURSTSIZE を 0 に設定した場合、メータリングが正しく動作しません。
- IPv6 QoS ポリシー用のクラシファイアにおいて、MACSADDR パラメーターが動作しません。

4.16 ハードウェアパケットフィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

ハードウェアパケットフィルターとダブルタグ VLAN (Nested VLAN) の併用時、カスタマーポートで受信したパケットに対して、INNERVLANID、INNERVLANPRIORITY、INNERTPID パラメーターが機能しません (DISCARD を指定しても破棄されません)。

4.17 ポート認証


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと

RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。


- RADIUS サーバーによってダイナミック VLAN を割り当てられた Supplicant がリンクダウン、ログオフなどで存在しなくなった場合、プライベート MIB である AuthPreAuthVlan、AuthPostAuthVlan が不正な値を返します。
- ポートの 802.1X 認証機能をいったん無効にしてから再度有効にすると、Authenticator は Supplicant の MAC アドレスをゲスト VLAN 上で学習しません。
- MAC ベース認証において再認証に失敗しても、プライベート MIB の atrMacBasedAuthUnauthenticated トラップが送信されません。

4.18 ディレクティッドブロードキャストパケット

 **【コマンドリファレンス】 / 「IP」**


特定 VLAN に対するディレクティッドブロードキャスト転送をオンにしている場合、ブロードキャスト MAC アドレス (FF-FF-FF-FF- FF-FF) 宛でのディレクティッドブロードキャストパケットを (別 VLAN で) 受信すると、それ以降、本体 MAC アドレス宛てに送信された通常のディレクティッドブロードキャストパケットを転送できなくなります。

4.19 TRACE、SET TRACE コマンド

 **【コマンドリファレンス】 / 「IP」**


- SET TRACE コマンドにおいて、MINTTL (最少ホップ数) に MAXTTL (最大ホップ数) より大きい値を指定してもエラーになりません。
- TRACE コマンドにおいて、パラメーター指定が正しくないときに表示が文字化けします。

4.20 ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース)

 **【コマンドリファレンス】 / 「IP」 / 「IP インターフェース」**


ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース) にブロードキャストアドレスを指定してもエラーになりません。ローカル IP インターフェースに IP アドレスを割り当てるときは、割り当てようとしている IP アドレスがご使用のネットワークにおいて利用可能なものであるかどうかを確認してください。

4.21 ADD IP ROUTE コマンド

 **【コマンドリファレンス】 / 「IP」 / 「経路制御」**


ADD IP ROUTE コマンドで METRIC1 パラメーターに値を指定し、METRIC2 パラメーターには値を指定しない場合、METRIC2 パラメーターに省略時の 1 が設定されず、METRIC1 パラメーターで指定した値が設定されます。

4.22 OSPF

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」**


- SET OSPF コマンドで DEFROUTE=OFF を指定しても、デフォルトルートの AS 外部 LSA を生成します。
- 隣接ルーターとの通信状態が「Attempt」（静的設定された隣接ルーターとの通信を試行中）であっても OSPF Hello パケットを送信しません。
- PURGE OSPF コマンドを実行しても、ADD OSPF REDISTRIBUTE コマンドによる設定内容は消去されません。これらを削除するには、DELETE OSPF REDISTRIBUTE コマンドを使ってください。

4.23 DNS キャッシュ

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」**


DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

4.24 IPv6

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」**

ICMPv6 Time Exceeded パケットの送信時に ICMPv6 カウンターの InTimeExcds がカウントアップされます。

4.25 ルーター通知 (RA)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」**

IPv6 インターフェースがダウンしても、Lifetime フィールドが 0 のルーター通知 (RA) パケットが送信されません。

4.26 IP マルチキャストルーティング全般 (IGMP + DVMRP, PIM-DM, PIM-SM)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」**

IP マルチキャストルーティング機能 (IGMP + DVMRP, PIM-DM, PIM-SM) の有効時、多くのグループ (1000 グループ程度) に宛てたマルチキャストストリームを同時に送受信すると、CPU 使用率が 100% 近くになり、コンソールの反応が一時的に低下するなどの現象が発生することがあります。

4.27 DVMRP

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」**


DVMRP インターフェースを削除し、再度追加した場合、該当インターフェース上の DVMRP 経路がホールドダウン状態のままとなります。

4.28 PIM-DM/PIM-SM

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」


- (PIM-DM) Assert が発生する環境において、Assert Timer 満了時にデータをフラッシュすることなく再 Assert するため、下流ルーターがマルチキャストデータを受信できなくなることがあります。このようなときは、SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターを 180 秒未満に設定してください (デフォルトは 210 秒)。
- (PIM-DM) Prune 中に上流ルーターの Generation ID が変更されても Prune メッセージを再送せず、結果として、次の Prune メッセージを送信するタイミングまで不要なマルチキャストトラフィックを受信してしまいます。
- (PIM-SM) (S,G) null Register メッセージのフォーマットが正しくありません。ただし、動作には影響ありません。
- (PIM-SM) すべてのポートがリンクダウンしている状態で ADD PIM BSRCANDIDATE コマンドを実行すると、警告メッセージが表示されます。

4.29 IGMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」


Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。

4.30 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」


SET IGMP Snooping ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。

4.31 PIM6-SM

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」

Join/Prune Interval (SET PIM6 コマンドの JPINTERVAL) の設定を変更しても、Join/Prune Holdtime が変更されません。

4.32 VRRP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

プリエンプトモード OFF かつ優先度 231 以上でバックアップルーターとして動作している場合、マスタールーターがダウンしてもマスターに移行しません。このような場合は、バックアップルーター側で VRRP を再起動してください (DISABLE VRRP → ENABLE VRRP の順に実行)。

5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正


取扱説明書とコマンドリファレンスの補足事項です。

5.1 FAULT LED の 3 回点滅

 **参照** 「取扱説明書」 27 ページ 「ステータス LED」


取扱説明書には記載がありませんが、FAULT LED（赤）の 3 回点滅（3 回の速い点滅と約 1 秒間の消灯時間）は、「本製品内部のファン、あるいは、内部温度の取得に失敗した」ことを示しています。

5.2 HTTP サーバー（サポート対象外）

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」


本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

5.3 コンパクトフラッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

コンパクトフラッシュ（CF）上のファイルを起動時設定ファイルに指定することはできません。

5.4 弊社 CentreNET SwimRadius 使用時の注意

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

本製品自身（コマンドラインインターフェース）へのログイン認証に弊社 CentreNET SwimRadius を使用する場合は、以下の点にご注意ください。


- SwimRadius は、Telnet で接続してきたユーザーの認証要求に対して Access-Accept（認証成功）を返すとき、Service-Type 属性を付加しますが、同属性の値としてはつねに Administrative(6) をセットするため、SwimRadius によって認証された Telnet ユーザーは、つねに Security Officer レベルでログインすることとなります。
- SwimRadius は、コンソールポート経由で接続してきたユーザーの認証要求に対して Access-Accept（認証成功）を返すときは Service-Type 属性を付加しません。本製品は Service-Type 属性のない Access-Accept を受信した場合は該当ユーザーのログインを許可しないため、コンソールポート経由のログイン認証を SwimRadius で行うことはできません。

5.5 DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」


DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義を使用するときは、ログの送信側と受信側で同一ファームウェア（ファイル名とバージョンが同じもの）を使用してください。それ以外の構成はサポート対象外とさせていただきますのでご注意ください。

5.6 NTP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「NTP」](#)


Windows XP 標準の NTP クライアントから NTP 要求を受信しても応答しないことがあります。これは Windows XP の仕様によるものです。

5.7 ユーザープライオリティー 6～7 のブロードキャスト転送レート

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#)


ユーザープライオリティー (802.1p) 6～7 を持つブロードキャストパケットの転送レートは約 50% です。


5.8 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#)

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。


5.9 ポート帯域制限機能と重み付きラウンドロビンスケジューリングの併用について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「QoS」](#)


送信ポートの帯域制限機能 (EGRESSLIMIT) と QoS の重み付きラウンドロビンスケジューリング (WRR) は併用できません。

5.10 ポートトランッキング

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)


ルーティング後トランクグループから送信される IP パケットの送出ポートは、ENABLE / DISABLE SWITCH HASH コマンドの設定とは関係なく、L3 ヘッダー情報にのみ基づいて決定されます。その他のパケットには、同コマンドの設定が適用されます。

5.11 マルチプル VLAN (Private VLAN)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「バーチャル LAN」](#)

マルチプル VLAN (Private VLAN) のプライベートポートでは、ARP パケットの処理が行えないため、DHCP、SNMP、Telnet、IP ルーティングなど、本製品との通信が必要な機能は使用できません。

5.12 MAC アドレス登録数

 [「取扱説明書」](#) 143 ページ [「本製品の仕様」](#)


取扱説明書には、MAC アドレス登録数が「15K (最大)」と記載されていますが、正しくは「16K (最大)」です。

5.13 クラシファイアの割り当てについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

1つのクラシファイアをハードウェアパケットフィルターとポリシーベース QoS の両方に割り当てないでください。このような設定をすると、ハードウェアパケットフィルターに割り当てたクラシファイアしか機能しません。


5.14 QoS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

高速なポートの配下から低速なポートの配下に Ping を実行した場合、フラグメント化されたパケットをロスする場合があります。そのようなときは、次のコマンドを実行して、Tail-drop 時の最大キュー長を大きくしてください（デフォルトは 30Kbyte）。


```
SET QOS RED=1 STOP1=100k
```

5.15 ハードウェアパケットフィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

- CREATE CLASSIFIER コマンドで「IPPROTOCOL=IGMP」を条件に含めても、IGMP パケットをフィルタリングできません。
- ハードウェアパケットフィルターのアクションに SETL2QOS を指定すると、IP TOS 値が 0 に書き換えられます。

5.16 IP 統計情報

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

本製品では、IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inHdrErrors カウンターがカウントされません。

5.17 ICMP メッセージ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

本製品は ICMP Redirect メッセージを送信しません。

5.18 ADD IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ADD IP ROUTE コマンドで METRIC を指定すると、METRIC 値は METRIC1 として設定されてしまいますが、動作に影響はありません。

5.19 BGP-4

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

ADD/SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX に OFF 以外の値を指定し、なおかつ、MAXPREFIXACTION パラメーターに TERMINATE を指定している場合、該当ピアからの受信プレフィックス数が MAXPREFIX を超過すると BGP セッションを切断しますが、その後ただち

にセッションを再確立しようとするため、TCP SYN パケットを繰り返し送出することがあります。

5.20 DVMRP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「DVMRP」](#)

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」（古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目）には対応していません。

5.21 PIM-DM/PIM-SM

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「PIM」](#)

マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェアパケットフィルターを設定し、PIM パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
CREATE CLASS=1 IPPROTOCOL=103
ADD SWITCH HWF CLASS=1 ACTION=SETL2QOS PRIORITY=7
```


5.22 PIM6-SM

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IPv6 マルチキャスト」](#) / [「PIM」](#)

マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM6 パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェアパケットフィルターを設定し、PIM6 パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
SET SWITCH CPUTXPRIO=7
SET SWITCH CPUTXQUEUE=7
CREATE CLASS=1 MACDADDR=33-33-00-00-00-0d ETHF=ETHII-UNTAGGED PROT=86dd
CREATE CLASS=2 MACDADDR=33-33-00-00-00-0d ETHF=ETHII-TAGGED PROT=86DD
ADD SWITCH HWF CLASS=1 ACTION=SETL2QOS L2QOSQUEUE=7
ADD SWITCH HWF CLASS=2 ACTION=SETL2QOS L2QOSQUEUE=7
```

5.23 VRRP とポート認証

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「VRRP」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート認証」](#)

VRRP とポート認証 (Authenticator) は併用できません。

6 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド
ENABLE、ADD、SET、SHOW などの後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

APPLETALK, CLNS, DHCP6, FIREWALL, GARP, GRE, GUI, HTTP, IPSEC, IPX, ISAKMP, L2TP, LDAP, LOADBALANCER, LB, MACFF, PKI, PPP, PPPOE, RSVP, SA, SSL, STAR, TACACS, TACPLUS, TEST

- 以下のコマンド (パラメーター)
COPY
DUMP
MODIFY
START/STOP/SET PKT
SHOW BUFFER [SCAN[=ADDRESS] [QUEUEPOINTERS]]
SHOW SYSTEM TEMPERATURE
LOAD [METHOD=LDAP] [ATTRIBUTE] [BASEOBJECT]
TRACE [ADDRONLY]
PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS]
[OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
SET PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS]
[SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE=(ALL|UPDATE)
PURGE PING TOTALLY
ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH ACCELERATOR DEBUG
SET/SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH TABLE
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH PORT [JUMBO]
SET SWITCH PORT [SPEED={xxxMHAUTO|xxxMFAUTO}]
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST
ADD VLAN PORT [UPLINK]
ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER
ADD/SET IP ROUTE FILTER [POLICY=0..7]
ADD/DELETE/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/DELETE/SHOW/ENABLE/DISABLE IP HELPER
ADD/SET/SHOW/DELETE IP SA
ADD/SET IP INTERFACE [GRATUITOUSARP] [VJC] [FILTER] [POLICYFILTER]
[PRIORITYFILTER] [MULTICAST]
CREATE/DESTROY/SHOW IP POOL
ENABLE/DISABLE IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP CACHE
SHOW IP CASSI
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST

SHOW IP POOL
SHOW IP FLOW
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
ADD IP ROUTEMAP [MATCHTAG]
ADD IPV6 INTERFACE IPADDRESS={DHCP;DHCPTMP;PD} [APPINT] [FILTER]
[HINT] [KEY]
ADD IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 INTERFACE [FILTER] [PRIORITYFILTER]
ADD IPV6 FILTER [PRIORITY]
DELETE IPV6 FILTER
SHOW IPV6 FILTER
SET IPV6 PREFIX
SHOW IPV6 MULTICAST
ADD/SET/DELETE DVMRP DLC
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]
ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES;HMAC;JOBPROCESSING;PRED;STAC;USER;
UTIL}
ENABLE/DISABLE QOS DEBUG
ADD/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE] [DLCI]
DELETE PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRESH]
ADD/SET PIM BSR CANDIDATE [HASHMASKLENGTH]
ADD/SET PIM6 INTERFACE [MODE=DENSE] [SRCAPABLE]
SET PIM6 [SOURCEALIVETIME] [SRINTERVAL]
SHOW PIM6 [STATEREFRESH]
CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT]
[FRAGOVERHEAD] [LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER]
[NUMBER] [TYPE]
ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]
[CBOPERATION] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE]
[MODEM] [NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACCHECK] [TERMINATE]
[TYPE]
ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS
ADD/DELETE PPP ACRADIUS
ADD/DELETE PPP VLAN
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR
ACTIVATE PPP RXPKT
SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

ENABLE/DISABLE MSTP CIST PORT
ENABLE/DISABLE MSTP DEBUG MSTI
ENABLE/DISABLE MSTP MSTI PORT
SHOW MSTP DEBUG MSTI
ENABLE/DISABLE DHCP Snooping STRICTUNICAST
ADD/DELETE IGMP Snooping VLAN RouterPort
SET IGMP Snooping VLAN QuerySolicit

7 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.H）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>